

自立と共生

誠実 勤勉 仁愛

共に育つ、わくわく悩む。

2025年度 教学IR情報の公開

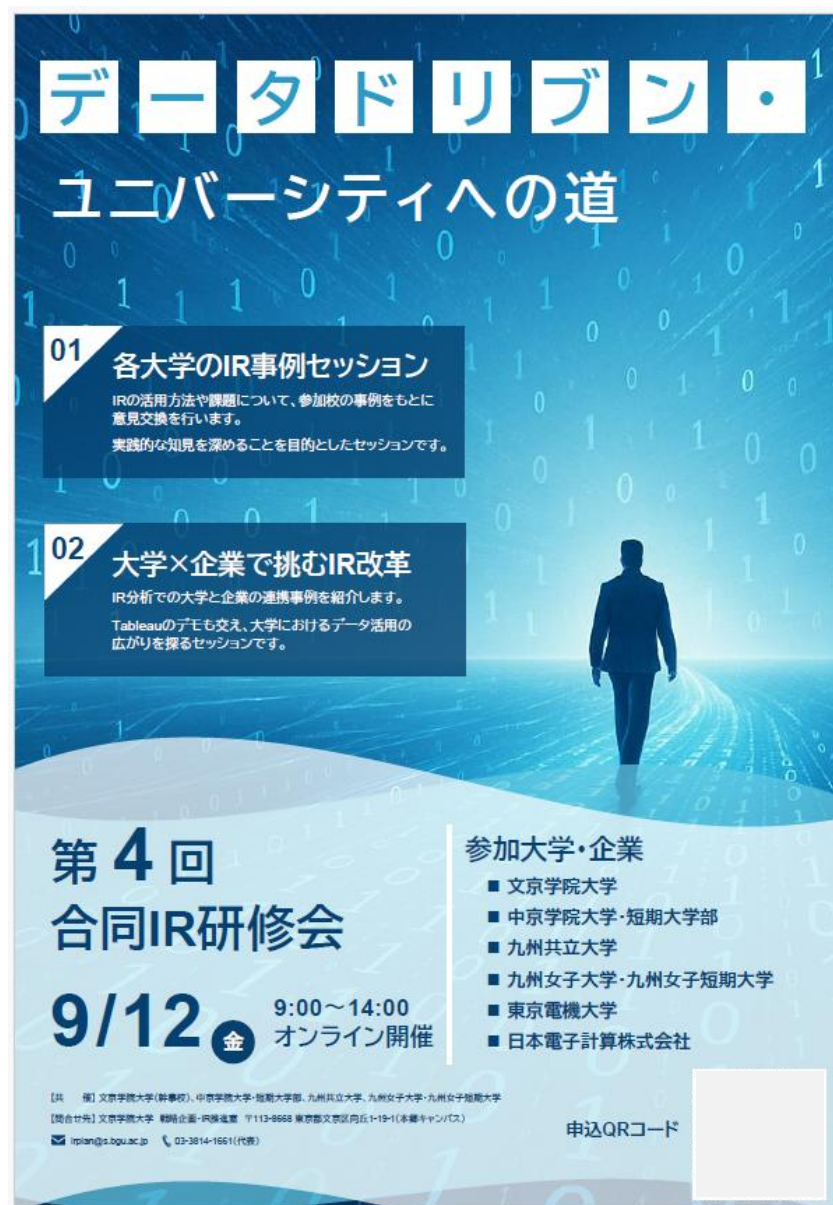
文京学院大学 ー取り組み事例ー

2025年9月12日（金）

戦略企画・IR推進室 石村友二郎



BUNKYO GAKUIN
100TH ANNIVERSARY
SINCE 1924-2024



データドリブン・ ユニバーシティへの道

01 各大学のIR事例セッション
IRの活用方法や課題について、参加校の事例をもとに意見交換を行います。
実践的な知見を深めることを目的としたセッションです。

02 大学×企業で挑むIR改革
IR分析での大学と企業の連携事例を紹介します。
Tableauのデモも交え、大学におけるデータ活用の広がりを探るセッションです。

**第4回
合同IR研修会**

9/12 金 9:00～14:00
オンライン開催

参加大学・企業

- 文京学院大学
- 中京学院大学・短期大学部
- 九州共立大学
- 九州女子大学・九州女子短期大学
- 東京電機大学
- 日本電子計算株式会社

【共 催】 文京学院大学(幹事校)、中京学院大学・短期大学部、九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学
【問合せ先】 文京学院大学 総務企画・関係企画 〒113-8668 東京都文京区月丘1-19-1(本郷キャンパス)
✉ irplan@c.bgu.ac.jp ☎ 03-3814-1561(代表)

申込QRコード

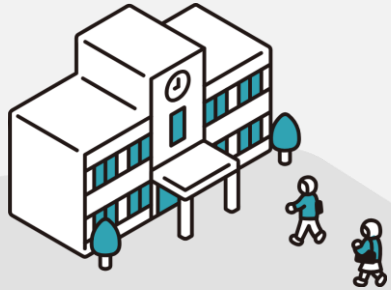
今年度は、本学が主担当として
合同IR研修会を
開催しました。

ここでは、発表と合わせて事例報告を行います。



01 データドリブン・カンパニーへの道

p.4



02 BGUのIR組織の紹介

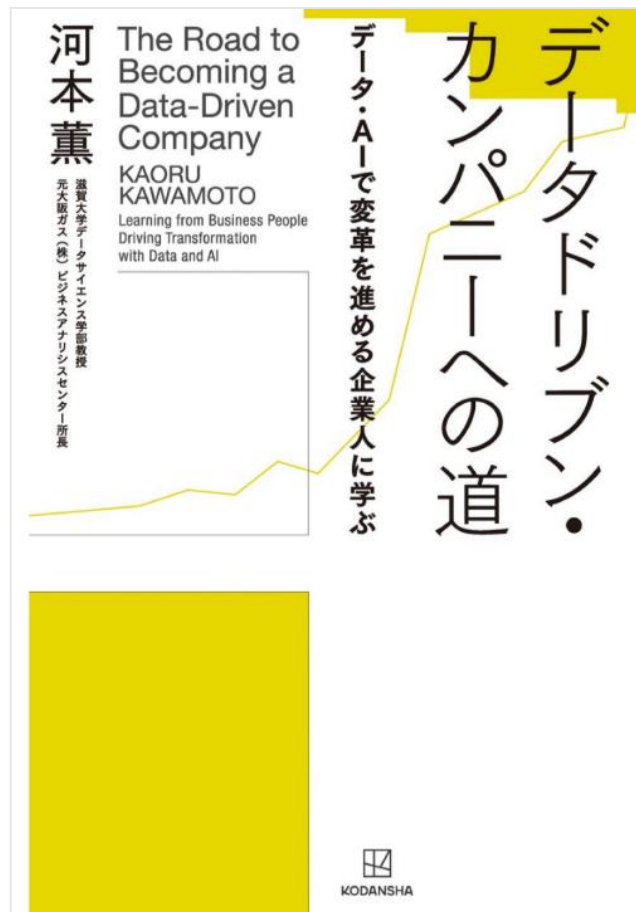
p.14



03 取り組み事例の紹介

p.27

日本企業9社のデータやAIを生かす事例を紹介しています。



河本 薫 先生

滋賀大学 データサイエンス学部教授

著者は、大阪ガスでデータ分析組織の構築と「データサイエンティスト・オブ・ザ・イヤー」受賞などを通じ、日本企業の変革を支えてきたデータ活用のプロフェッショナルです。

本書では、DXやAI導入が進んでも成果につながらない“壁”の正体を丁寧に描き、実際に変革を進めた企業人へのインタビューから、突破のヒントと処方箋を提示してくれます。

“データドリブンへの道”が見えてくる、勇気と実践の一冊です。

「わかる」から「役立つ」へ。 データ活用と行動で、意味ある成果につなげることが重要です。

ここからは、本書で扱われている3社の事例を紹介します。



誰が



何をして



どうなった？

株式会社キーエンス：センサー・測定機器・制御機器を扱う機器メーカーです。

データドリブン経営が実現しています。



誰が

- 主役は現場担当者



何をして

- 常に原因を追究する文化
- 日常的に、データを使った説明が求められる



どうなった？

- 数字を使って追及することの習慣化
- データを生かすカルチャーの醸成

KI：データ分析プラットフォーム



出典：データ分析プラットフォームKI, <https://analytics.keyence.com/>（閲覧日：2025.8.19）

データだけでなく、肌感覚も重要です。

よいやり方をみんなで追及し共有

AGC株式会社（旧旭硝子）：ガラス・セラミックス・化学品メーカーです。

因果連鎖分析で、ビジネスの課題設定を明確化します。



誰が

- DX推進部
- 改善に抵抗がない部署



何をして

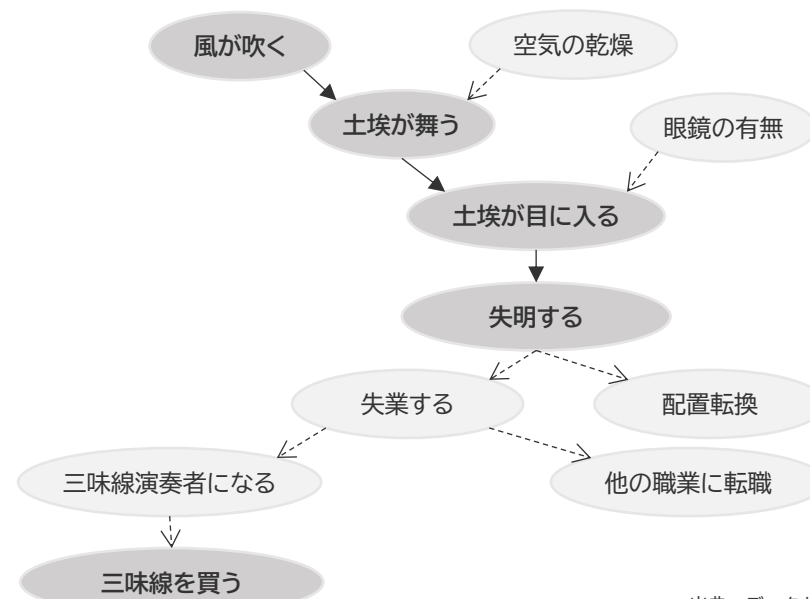
- 社内へ成功事例の共有
- 課題設定力のトレーニング



どうなった？

- DX自由相談会の実施
- 課題設定ができる人材を増やす

因果連鎖分析：原因と結果をモデル化し、AIでデータ検証



出典：データドリブン・カンパニーへの道

「みんなが知っているけど、なかなか出ないもの」（暗黙知）を
「言葉や図で整理する」（形式知化・言語化）する。

正しい課題設定につなげる

ダイハツ工業：小型車・軽自動車を扱う自動車メーカーです。

一社員の情熱が会社を変えました。



誰が

- 工場担当者
- やる気と好奇心のある担当者



何をして

- 一社員がAI開発
- 周囲を巻き込む（WGを作る）



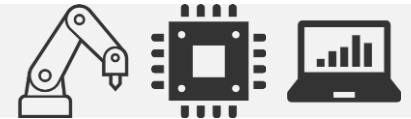
どうなった？

- 効率化の波を拡大
- 小さく始めたAI活動推進が、会社全体へ普及

AI活用の歩み

小さく始めた
AI活用推進

ロボットアームの
故障予兆モデルを導入



勉強会で
仲間づくり

啓発研修 → ダイハツAI道場



AI・BIツールの
全社展開

上司や経営層が賛同



「ええ活動やな」

世界観をもって泥臭くそれに向かって本気でやれば、
誰かしら応援してくれる

データドリブン経営に進化するための処方箋があります。

データドリブンの類型化	概要	処方箋
効率化データドリブン	業務の自動化や最適化、高速化を目指す	推進役は自分であるという姿勢 自分事化・内製化
追求型データドリブン	原因や課題の追求、仮説の探求を目指す	行動が習慣を変え、習慣が人を変える Why & Try文化の醸成
社交型データドリブン	他社や顧客とデータ共有による連携強化を目指す ※会社間の交流を意味する	業界全体や社会の視点を持つ 行動するリーダー（経営層）

IRが文化を育てるには、どうしたらいいか？

データを生かす文化を育てましょう。



小さく

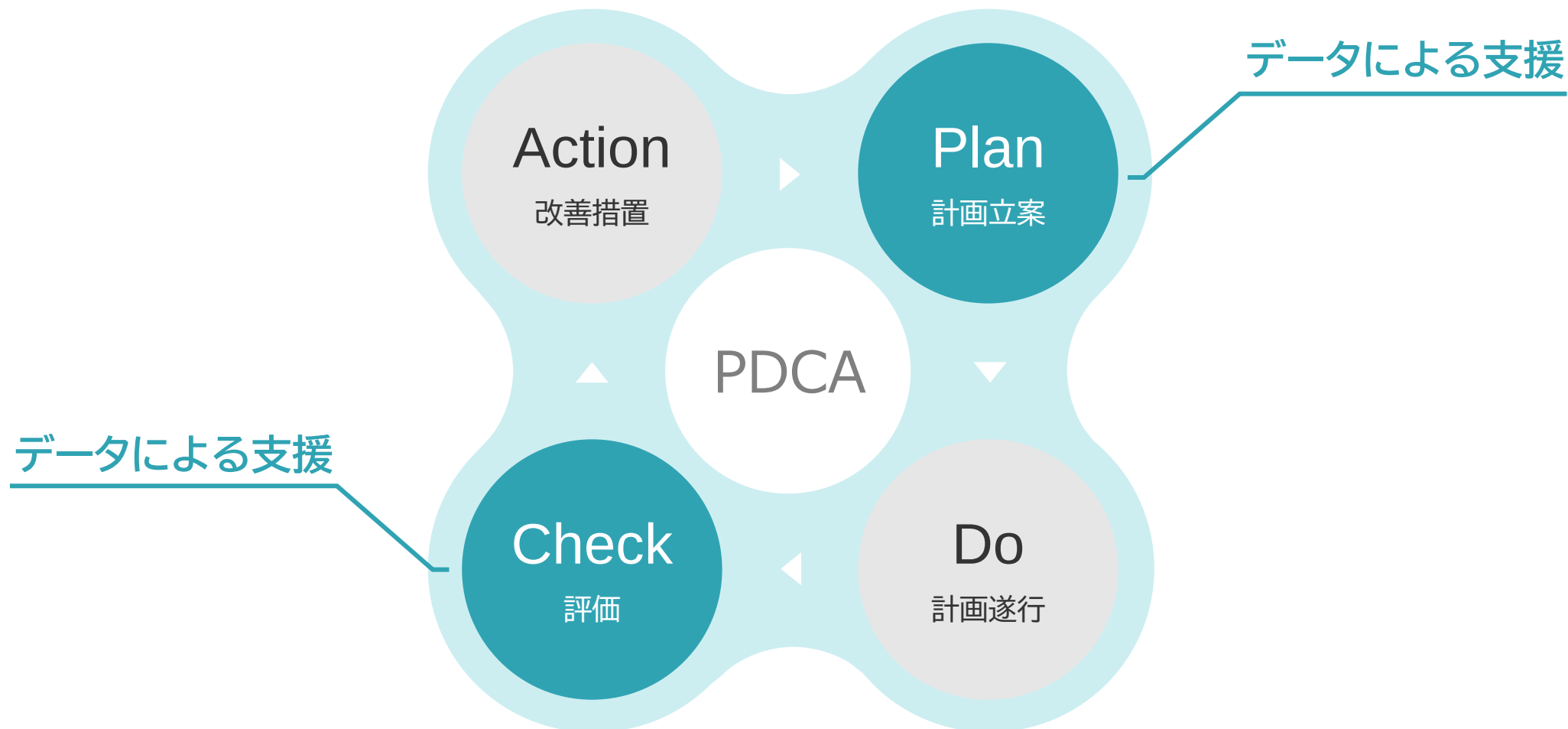
Why & Try する文化を始めよう。

メインメッセージ

「知の総和」の向上にむけて、 IRで、データを活かした意思決定の仕組みを支援します。



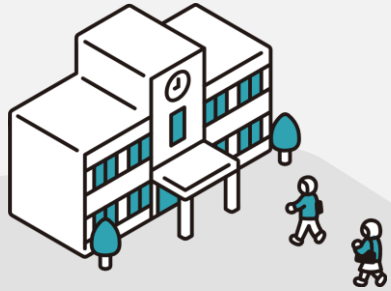
仕組みの中で機能し続ける「役立つ」IR が、文化を育てます。





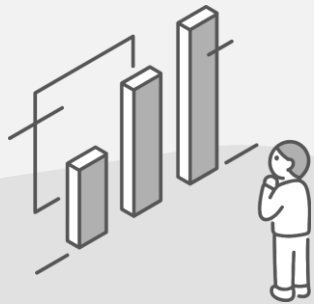
01 データドリブン・カンパニーへの道

p.4



02 BGUのIR組織の紹介

p.14



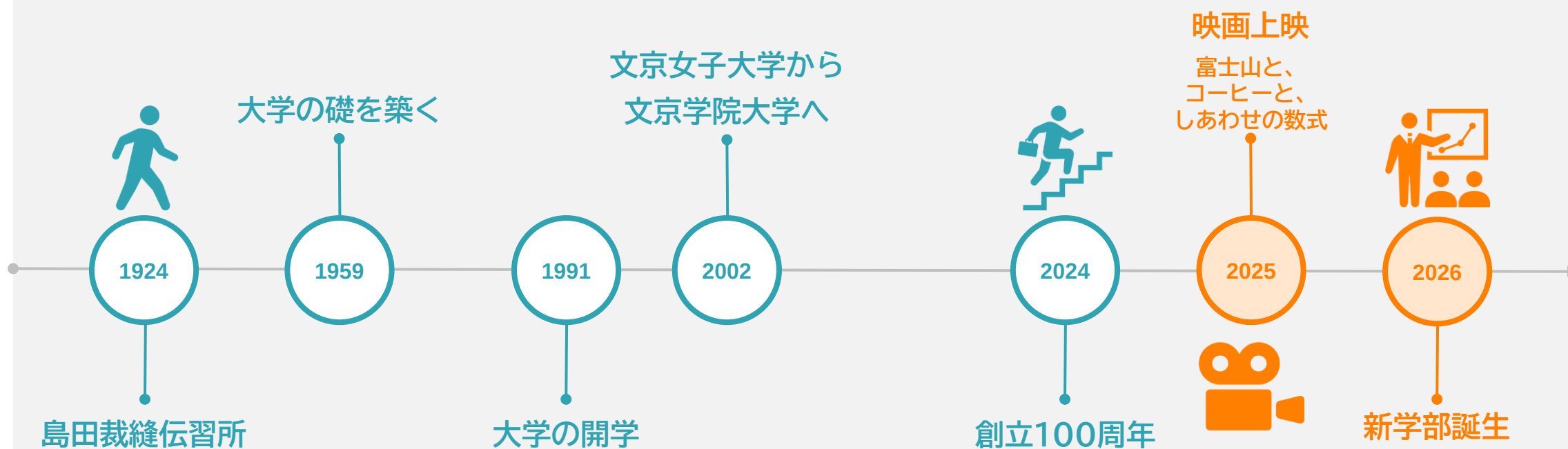
03 取り組み事例の紹介

p.27

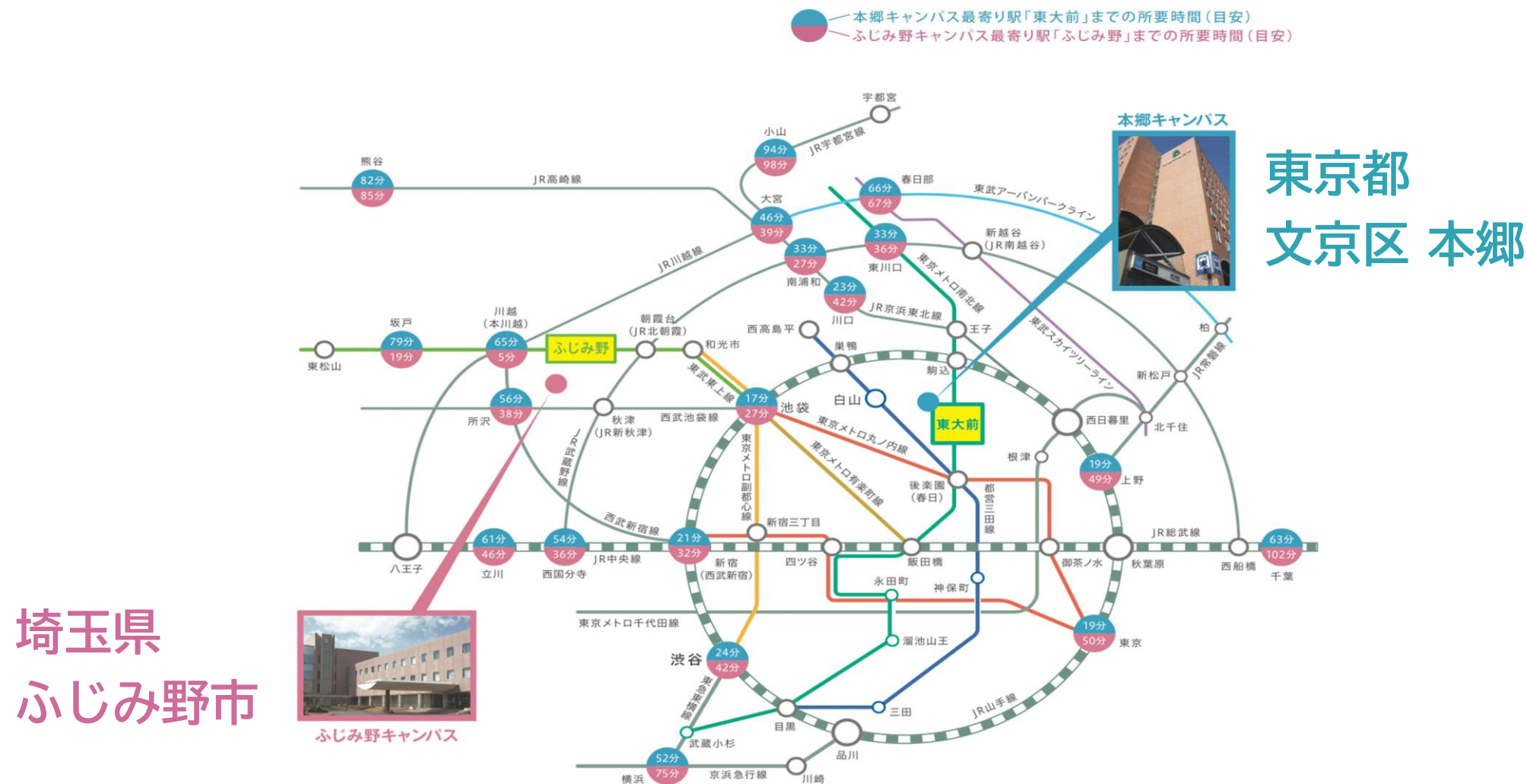
本学は2024年10月で、**創立100周年**を迎えました。

2026年4月 ヒューマン・データサイエンス学部が誕生します。

自立と共生



東京と埼玉にキャンパスがあります。



4学部＋大学院の構成で、多くの学生が在籍しています。

学部・大学院

外国語

経営

人間

保健医療技術

大学院(6)

在籍数



4,020^名



649^名

*2025年5月時点

教学IRに関する業務は、戦略企画・IR推進室が担当しています。



室長



アシスタント
マネージャー

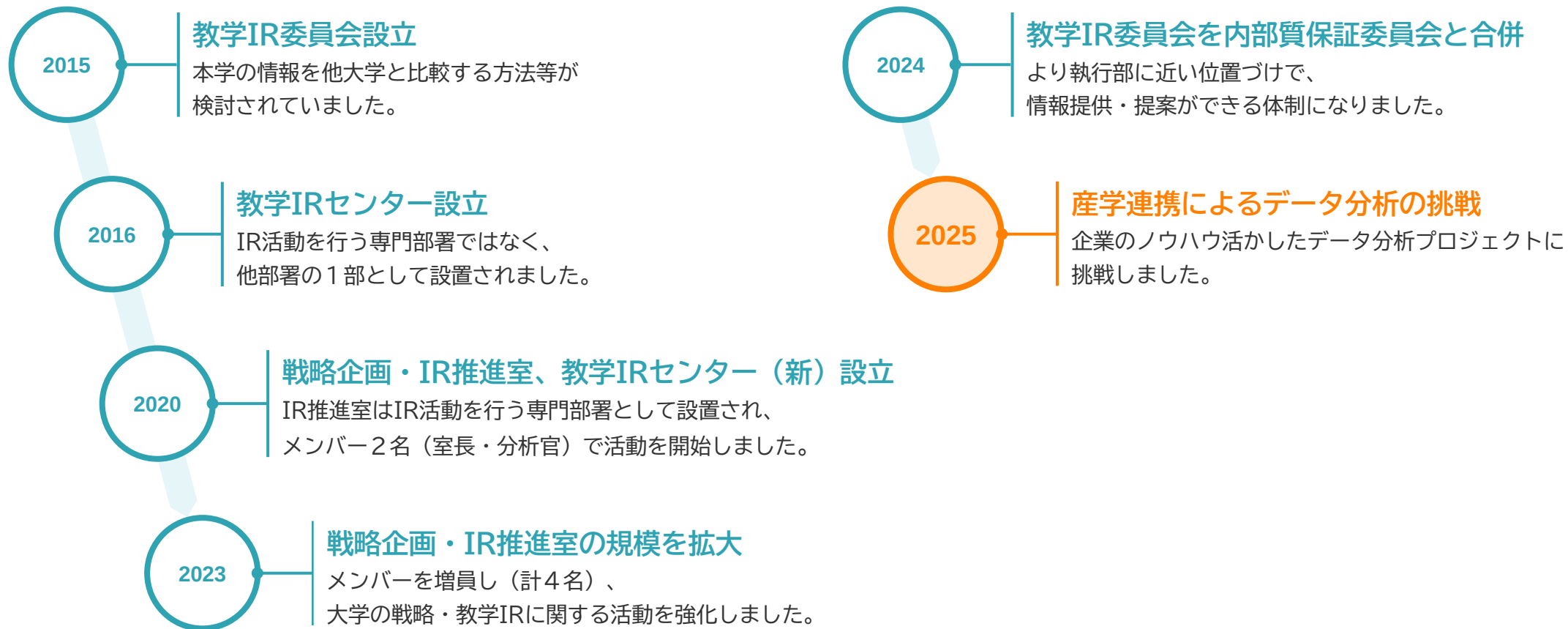


分析官



パート

10年目を迎え、新しい挑戦に踏み出します。



IRを通じて、大学の自己点検・評価や改善を支援する部署です。

内部質保証体制図



▶ 次に、IR推進室の機能を紹介します。

本部署は、3つの機能を持っています。

戦略企画



内部質保証

大学が自ら行う
(自己点検・評価を含む)質の
改善に向けた
組織的な活動を行う。



総合研究所

教職員の研究に係る
手続きなどを支援する。

IR推進室



教学IR

学生の成績や学修状況に関するデータを
大学が自ら収集・分析し、
大学の意思決定を支援する。

IRの多様な機能に広く携わり、**基盤づくり**に貢献しています。

01



計画策定支援

情報の提供と分析を通じた
計画の促進・支援

02



意思決定支援

情報提供による
意思決定の支援

03



政策形成支援

高等教育政策の分析・情報提供／
政策関連テーマの研究

04



評価活動支援

評価・説明責任・自己点検プロセス
の調整とそれに必要な情報提供

05



個別テーマの調査研究

学生意向調査／エンrollment・
マネジメント研究など

06



データ管理

DBを利用したデータ収集／
データ検証／DBのメンテナンス

07



データ分析

収集データの分析とその解釈

08



学部レポート

政府へのレポート作成／
外部出版物へのデータ提供

Thorpe, S. W.,(1999). The Mission of Institutional Research. The 26th Conference of the Northeast Association for Institutional Research.

より外的性質を高める役割を強化していきます。



浅野 茂（2015）．「IRの4つの顔」から見える日本の大学のIR像，大学評価とIR，第4号，Pp.43-50．

Icons made by kornkun, Good Ware, and Freepik from www.flaticon.com



Purpose – 存在意義 –

- 学内の意思決定や教学改善の活動を立案・実行・検証するための支援を行う
- 学修成果を公開し、大学の説明責任を高める



Vision – 未来像 –

- 各学部が教学IRから提供されるレポート等をもとに、意思決定や教学改善の活動を行う
- 学生自身のアイデアで、より良い大学を作る



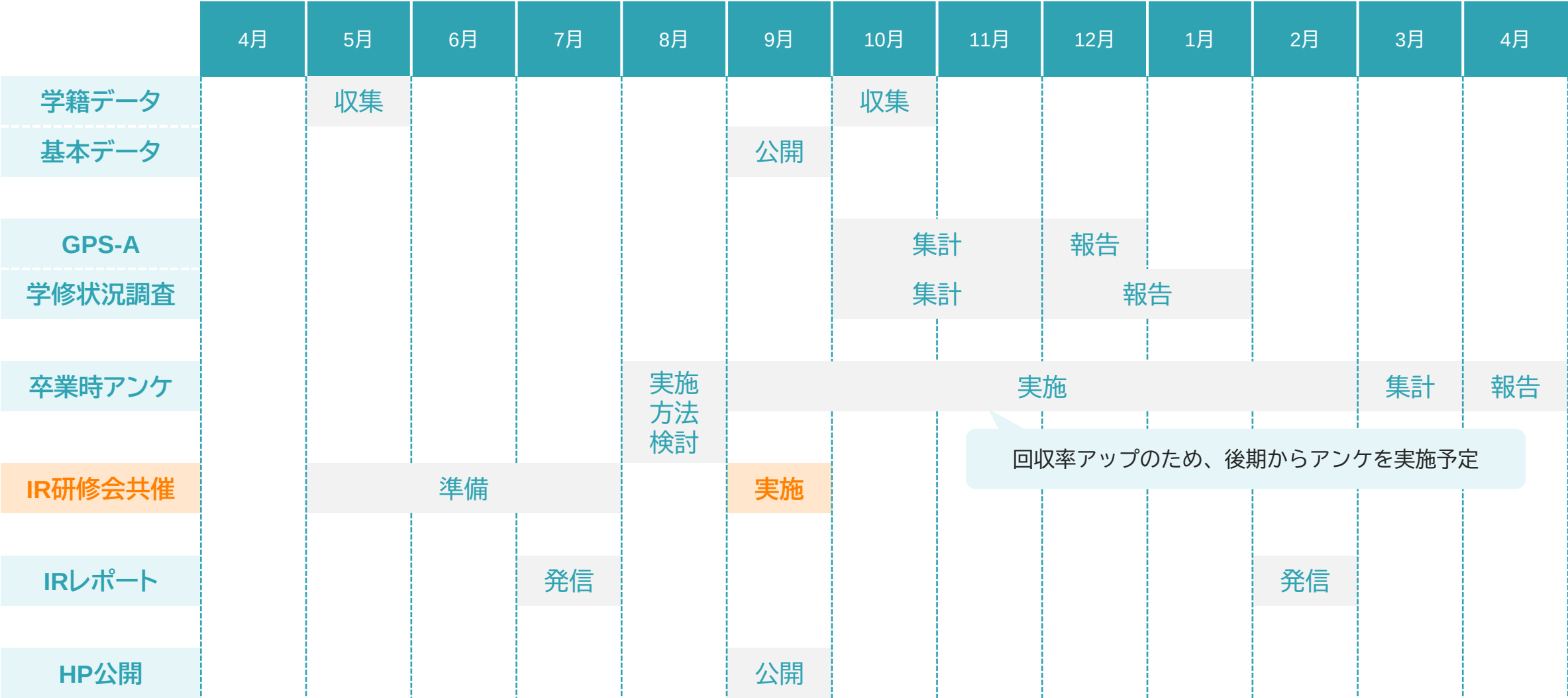
Mission – 使命 –

- 入学から卒業までの学修データを集積・分析
- 分析依頼の対応
- 改革総合支援事業タイプI 対応
- 学生参画型教学IRの立案・実行・情報公開



Value – 価値観 –

- 各取り組みの目的が明確
- 定期的なデータ収集と報告・HP公開
- 執行部への年2回の教学IRレポートの発信
- 産学連携による「役立つ」分析の実現





小さく

データを生かす文化を育てましょう。

Why & Try する文化を始めよう。



仕組み（PDCA）の中で機能し続ける「役立つ」IR が、
文化を育てます。



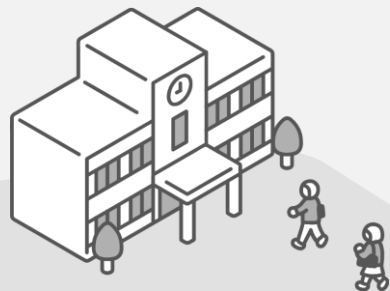
スピンドクターとしての役割を強化していきます。

ここまでのまとめ



01 データドリブン・カンパニーへの道

| p.4



02 BGUのIR組織の紹介

| p.14



03 取り組み事例の紹介

| p.27

01



卒業時アンケート

これまでのアドバイスの結果と、
昨年度の新たな取り組みを
紹介します。

02



役立つGPS-A

生成AIを活用し、アセスメント
テストを「役立つ」観点で
分析した事例を紹介します。

03



全国学生調査

今年度から導入する調査を
「役立つ」文化へ醸成させる
方法を検討します。



回収率が低いことが課題でした。

卒論提出時期から調査をスタートすることで、 3つの成果につながりました。

成果の1つ目



回収率が向上

より多くの教職員を巻き込み、
62.1%('22) → 60.3%('23)

→ **71.4** %('24)
を達成しました。

成果の2つ目



コメントの質向上

卒論提出直後の達成感や充実感の
あるタイミングで実施したことで、

率直な質的データを
収集できました。

成果の3つ目



意見の上層部共有

コメントを学長 → 上層部の委員会で
共有し、学生さんの生の声を

意思決定に生かす一歩に
つなげました。



学長との IRミーティングを実施

前回の研修会でのアドバイスを
踏まえ、学長と月1回のIRミー
ティングを行っています。

学長の実現したいこと、俯瞰し
た視点でのデータ活用のヒント
を得ることができました。

DP（学修成果の可視化）と満足度について尋ねます。

コメント欄を設け、感情を動かすデータを集めます。

成長実感

（１）在学中に成長を感じたことはどのようなことでしたか？（複数選択）

- ☐ 自分の自立心
- ☐ 他者への共感性
- ☐ 社会へ貢献する心
- ☐ 他者との意見交換する力
- ☐ チームで問題解決する力
- ☐ 目標に向けて主体的に学習する力
- ☐ 教養・専門の知識と技能

（自由記述）成長を実感できたエピソードがあれば、ご記入ください。

満足度

（２）在籍中、授業を含めた学修環境全般に対する満足度はどの程度でしたか？

（自由記述）学修環境について、良かった点、改善すべき点があれば、ご記入ください。

（３）在籍中、本学からの学生生活への支援全般（奨学金制度、留学制度など）に対する満足度はどの程度でしたか？

（自由記述）学生生活への支援について、良かった点、改善すべき点があれば、ご記入ください。

（４）卒業後のあなたのキャリア（就職・進学・その他）に対する満足度はどの程度ですか？

（自由記述）よりキャリアの満足度を高めるために、大学として必要な支援があれば、ご記入ください。

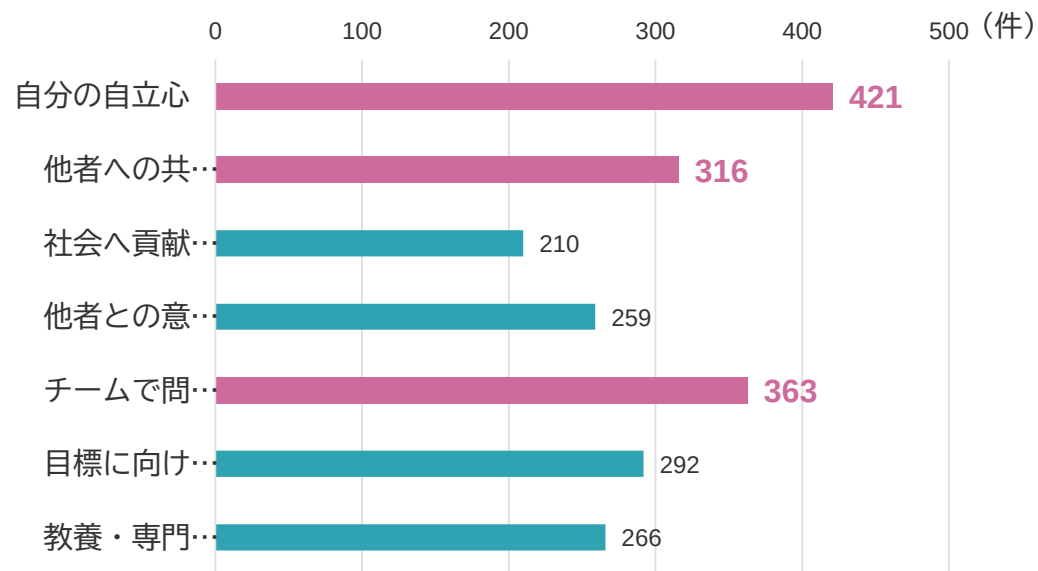
（５）入学から卒業までを振り返り、学部・学科に対する総合満足度はどの程度ですか？

（自由記述）文京学院大学に入学して良かった点や、特徴を感じたこと等があれば、ご記入ください。

1. 不満である 2. やや不満である 3. やや満足である 4. 満足である

成長実感（n = 770人、2127件）

	選択件数	割合
自分の自立心	421	54.7%
他者への共感性	316	41.0%
社会へ貢献する心	210	27.3%
他者との意見交換する力	259	33.6%
チームで問題解決する力	363	47.1%
目標に向けて主体的に学習する力	292	37.9%
教養・専門の知識と技能	266	34.5%



最も多く選ばれたのは「自分の自立心」（54.7%）

- 大学生活を通じて、「一人で考え、行動する力」が強く育まれたと感じる学生が多いと推察されます。

「チームで問題解決する力」（47.1%）や「共感性」（41.0%）も上位

- 協働学習やグループ活動が効果的だったといえそうです。



コメントは強み・特徴の観点で集計し、OCでも活用します。

- 総合満足度に関する設問に寄せられたご意見をもとに、主な傾向を要約してご紹介します。



総合満足度

スピンドクター
としてのIR



教職員の
面倒見の良さ

就職のことまで親身にサポートしてくれて、本当にありがたかったです。先生との距離が近くて、いつでも相談できました。



少人数制の
学びやすさ

少人数の授業で、丁寧に教えてもらえるのがすごく良かったです。一人ひとりをちゃんと見てもらえる安心感がありました。



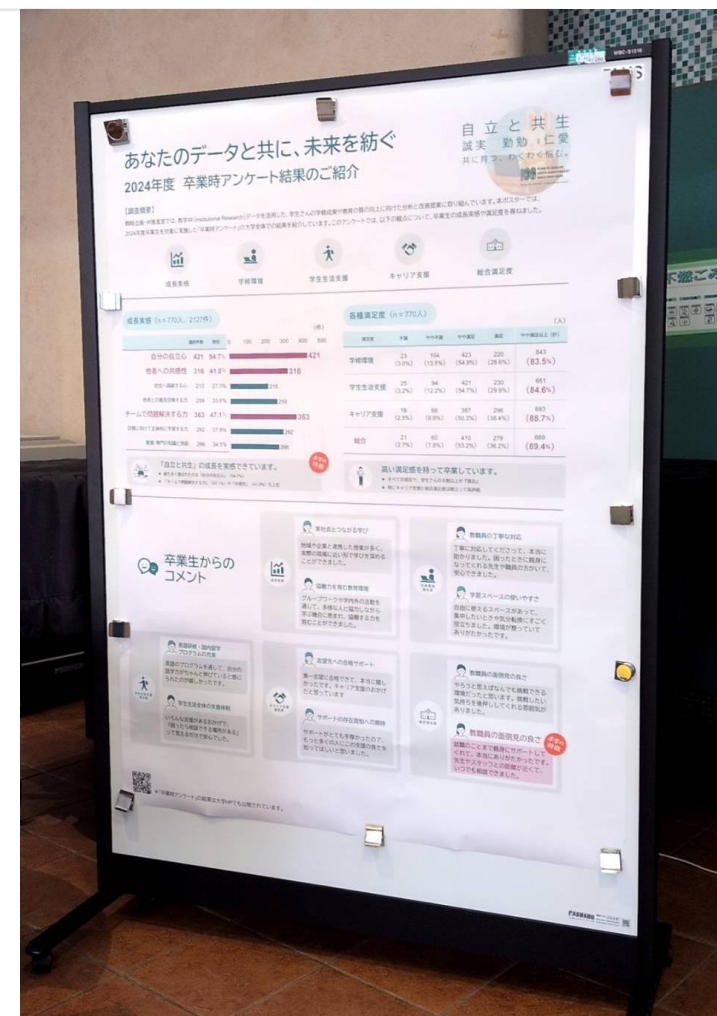
居心地の
良さ

あたたかくて落ち着いた雰囲気があり、安心して通える大学でした。居心地がすごく良かったです。



多様な価値観
との出会い

多様な価値観を知る機会が多くて、新しい視点に触れられました。いろんな出会いがあって世界が広がった気がします。



Why & Try する文化を始めよう。



Why

なぜ、うちの大学はすごいのか？



Try

強み・特徴をみんなに知ってもらう

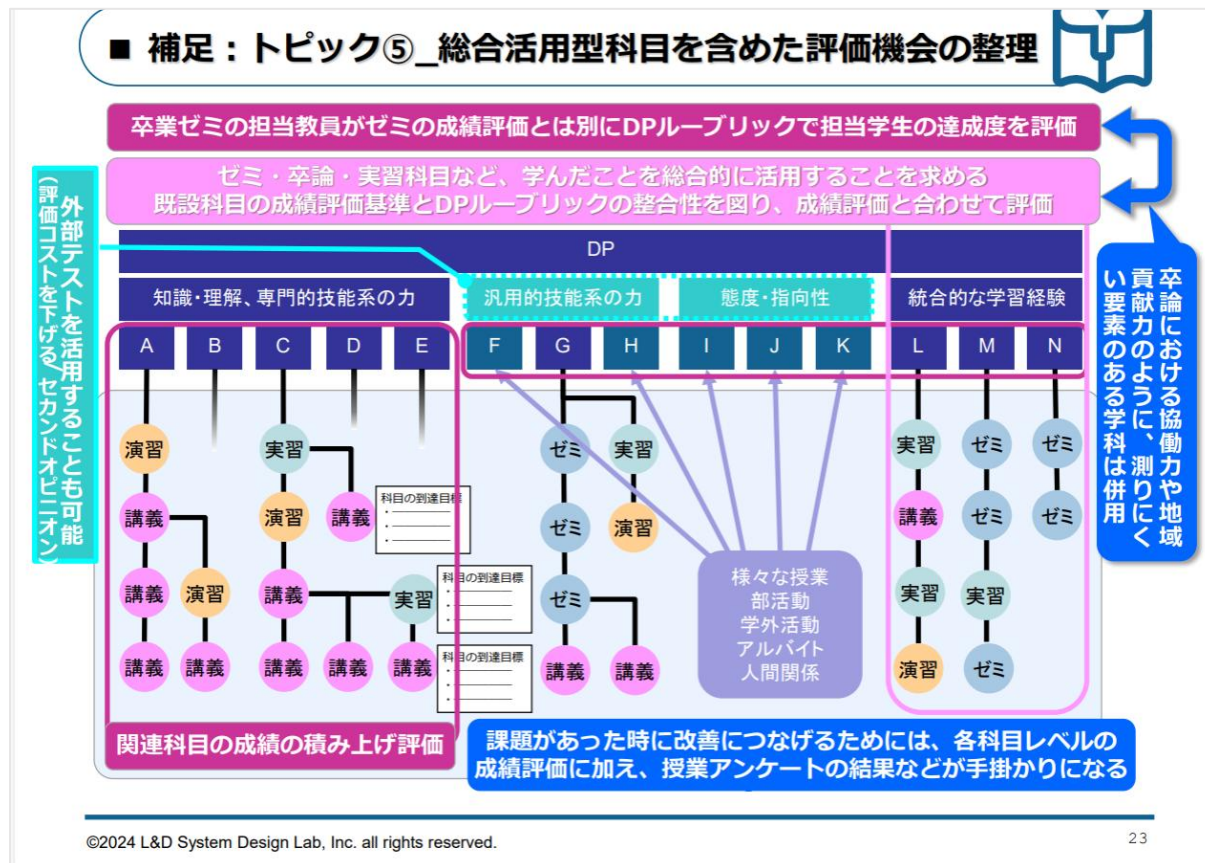
事例01 卒業時アンケート

2024年度は、企業のアイデアをもとにDPの可視化を行いました。

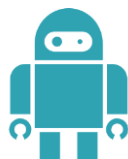
学修成果

学びと成長しくみデザイン研究所

- 教育の質保証のしくみづくりをサポートしている会社です。
- セミナーでは、DP の具体化・カリキュラムマップの例が紹介されました。
- このアイデアをベースに、今年度は、
IR視点でDPの可視化にチャレンジしました。



学科ごとのGPS-Aの結果とDPを関連付け、 DPの上位群と下位群の特徴を比較します。



Step1

DPと項目の紐づけ

学科ごとのDPとその内容
に関連するGPS-Aの項目
を紐づけます。



Step2

DP到達度の算出

紐づけた複数の項目の
平均値を算出し、その
スコアをDPの到達度(0～100)
とします。



Step3

2群の比較

DPの到達度を、
上位群(上位25%)と
下位群(下位25%)に分け、
特徴を比較します。

DPと項目を生成AIで関連付け、その理由もアウトプットします。

再現性がなく、IR視点で紐づけていることに注意が必要です。

経営学部DP（一部）

DP1

- 学科の科目分野(経営・会計・関連分野)の基礎的な知識を理解し、他者に対して説明することができる。

批判的思考力



基礎的な専門知識を正確に理解するために、必要な情報を適切に取捨選択し、客観的に吟味する力が求められるため。学んだ知識を他者に分かりやすく説明するには、論点を整理し、論理的に伝えるスキルが不可欠なため。

学びへの意欲



専門知識を深める上で、受け身ではなく自らの視点をもって学習を進めることが、知識の定着と多角的理解に繋がるため。

後期に、提供元とキャリアセンターも交えた応用を検討しています。

内部で次の活用につながる結果を提供します。

DPごとの比較



情報精通者
としてのIR



全体的な特徴

上位群



特徴
1

学びへの意欲と実践力が高い

下位群



特徴
1

学びへの意欲が低く、
基礎知識の習得が不十分

Why & Try する文化を始めよう。



なぜ、「役立つ」にならないのか？



現場で生かせる形にする

事例02 役立つGPS-A

2025年より、全国学生調査をアセスメントとして導入します。

我が国の「知の総和」向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～（答申）要旨②

中央教育審議会（令和7年2月21日）

2. 今後の高等教育政策の方向性と具体的方策①

（1）教育研究の「質」の更なる高度化

1 学修者本位の教育の更なる推進

- ア、学びの質を高めるための教育内容・方法の改善
- 学生が主体的・自律的に学修するための環境構築
 - 教学マネジメント指針の見直し
 - 同時履修科目の絞り込み促進
 - レイトスペシャライゼーションを促進するための定員管理制度の弾力化 等
 - 「**出口における質保証**」の促進
 - 厳格な成績評価や卒業認定の実施
 - 成績優秀者への称号授与 等
 - 高大接続を踏まえた大学入学選抜等の改善
 - 遠隔・オンライン教育の推進
- イ、新たな質保証・向上システムの構築
- 大学設置基準及び設置認可審査の見直し
 - 基幹教員の配置に係る基準や指導補助者の基準等について制度改革
 - 認証評価制度の見直し**
 - 在学中にどれくらい力を伸ばすことができたのか等を含む教育の質を数段階で評価する**新たな評価制度**への移行

3 大学院教育の改革

- ア、質の高い大学院教育の推進
- 体系的な大学院教育課程の編成の推進
 - 修士・博士5年一貫プログラムの構築（特に自然科学系）等
 - 学士課程から博士課程までの連続性向上・流動性促進
 - **学士・修士5年一貫教育の大幅拡充（特に人文・社会科学系）**等
- イ、幅広いキャリアパスの開拓推進
- 多様なフィールドで一層活躍するための環境構築、多様な進学者の受入れ促進
 - 学位の質保証を前提とした社会人の修士・博士の1年での学位取得推進 等

2 多様な学生の受入れ促進（外国人留学生や社会人等）

- ア、多様な学生の受入れ促進
- 多面的・総合的な入学選抜の推進
 - 転編入学等の柔軟化
 - **転編入学の増加**を図るための**定員管理の見直し** 等
 - 障害のある学生への支援 等
- イ、留学モビリティ拡大
- 外国人留学生等の受入れや日本人学生の派遣の推進、国際化のための体制整備
 - 経済的支援の充実
 - 多文化共修環境整備
 - **留学生の定員管理方策の制度改革** 等
 - 適切な在籍管理、技術流出防止対策の徹底・強化 等
- ウ、社会人の学びの場の拡大
- 教育環境の整備
 - 産業界と連携した教育プログラム開発
 - 産業界・地方公共団体等との組織レベルでの連携推進
- エ、通信教育課程の質の向上
- 時代の変化を踏まえた通信教育課程の在り方を見直し
 - **通信教育課程の更なる質の向上のための制度改革**や**学生支援に向けた検討** 等

4 研究力の強化

- 研究の質向上に向けた研究環境の構築
 - 研究開発マネジメント人材等の量的不足解消・質向上
 - 大学共同利用機関等の機能強化 等
- 研究環境の低下要因を取り除くための**業務負担軽減**の推進
 - 研究と教育それぞれに重点を置く教員の活用促進
 - 形式的な会議の見直し 等

5 情報公表の推進

- 情報公表の内容・方法の改善
 - 高等教育機関の情報を横断的に比較できる**新たなデータプラットフォーム（Univ-map（ユニマップ）（仮称））**の構築
- 全国学生調査の活用



2

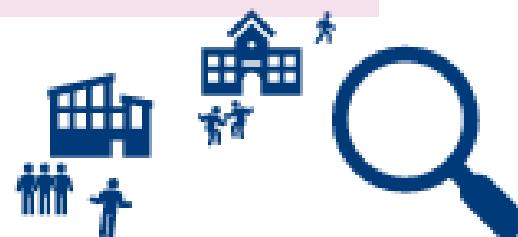
5

情報公表の推進

○情報公表の内容・方法の改善

- 高等教育機関の情報を横断的に比較できる**新たなデータプラットフォーム（Univ-map（ユニマップ）（仮称））**の構築

○全国学生調査の活用



2

Why & Try する文化を始めよう。



どうしたら「役立つ」か？



あなたは、どう挑戦しますか？

事例03 全国学生調査

データを生かす文化を育てましょう。



小さく

Why & Try する文化を始めよう。

メインメッセージ